

2 モデル地区の概要

(2) 栄区公田町団地(集合住宅)

交通

最寄駅: JR大船駅(横浜から15分)

大船駅から**バス利用**

公田団地行き: 60本/日 (15~20分)

※団地内 バス停2か所

丘陵地一帯が団地のため、随所に坂がある。

- 人口: 2, 055人
- 世帯数: 1, 100世帯
- 高齢化率: 27. 5%(21年9月)
- 高齢一人暮らし世帯 183世帯(16.7%)

- 33棟(すべてエレベータなし)
全1, 160戸 築40年余りの建物

「NPO法人お互いさまねっと 公田町団地」

栄区公田町団地の町内会役員、民生委員、ボランティア等の地域住民が発起人となり、地域のつながりの再生を目指して、平成21年9月に発足。現在、会員は約130名

理事長は自治町内会長を務めている

理事の中には民生委員・児童委員がいる。

※民生委員・児童委員への依頼がスムーズ

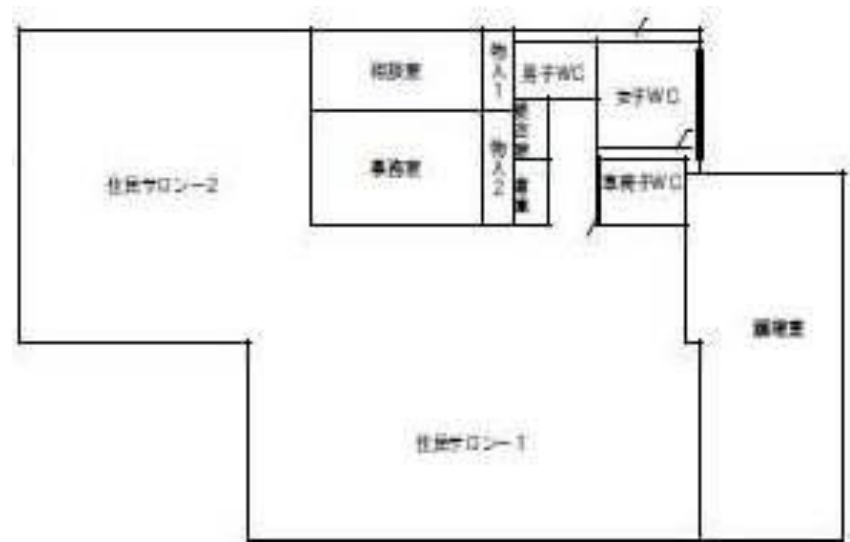
地域ケアプラザの所長が監事。

多目的交流拠点「いこい」

厚生労働省(地域介護・福祉空間整備等交付金)を活用し、平成22年4月に開所。

- ①**安心センター** (見守りとセンサー感知情報を管理)
- ②**買い物支援**
- ③**見守り・交流(サロン)**
- ④**ミニ食堂**
(見守りを含める)

面積:216.48㎡



月曜～日曜(木曜休み)
午前10時から午後5時まで

原則1：基盤支援を必要とする人々と そのニーズを把握する

◆ニーズ把握のための訪問調査を実施

NPO取得以前の自治会活動で見守り希望者を調査。現在、NPO法人として再度アプローチし、同意確認中。



高齢者施設の経験を有する社会福祉士(1名)が「いこい」開設時間内に常駐(木・日除く)し、相談や必要時、訪問。地域ケアプラザとの連絡は、毎日立ち寄り報告。連携がスムーズである。

月1回 区福祉保健センター
職員と定例会

原則2: 基盤支援を必要とする人が もれなくカバーされる体制をつくる

◆地域住民主体のNPOが行政と協働で基盤支援を実施

- ・チーフ・見守り支援員雇用、訪問・見守り実施中
- ・買物支援はNPOを中心に実施
 - ◆日常生活用品の物販
お米、トイレトペーパー、洗剤、地方の名産品など
※利用者の声を聞きながら品目選定、若干の利益を乗せて販売
 - ◆青空市(毎週火曜日)
弁当、惣菜、野菜、牛乳(注文販売)など ※若干の利益を乗せて販売
希望者には自宅まで配達。
- ・行政は、対象者の抽出、同意の取付け、地域住民への広報周知活動拠点の開設・運営支援等を実施
→リストアップは完了だが・・・同意確認のアプローチが困難

2地区の活動を通じての気づき

◆地域住民、NPO法人の見守る対象者

(本人からの同意はなくも) **気になる人は、すべて見守りの対象者**。新たな対象者を把握。

見守りは、気持があれば誰でもできる。

孤独死は防げないが、孤立や長期間の放置は防げる。

◆ニーズがあれば即、検討

日常生活品、青空市の品物は、利用者の声から検討・販売・実施へ

(食品・生活衛生面の許可申請等を区福祉保健センターへ相談、調整)